

令和7年度 全国学力・学習状況調査

香取市教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の名称 令和7年度全国学力・学習状況調査

3 調査の対象

- (1) 小学校調査 小学校第6学年
- (2) 中学校調査 中学校第3学年

4 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査【国語、算数・数学、理科】

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等。
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

〔児童生徒に対する調査〕

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

〔学校に対する調査〕

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 調査実施日 令和7年4月17日（木）※中学校理科 IRT 調査を除く 令和7年4月14日～17日 中学校理科 CBT 検査

6 調査結果

(1) 本体調査の結果から

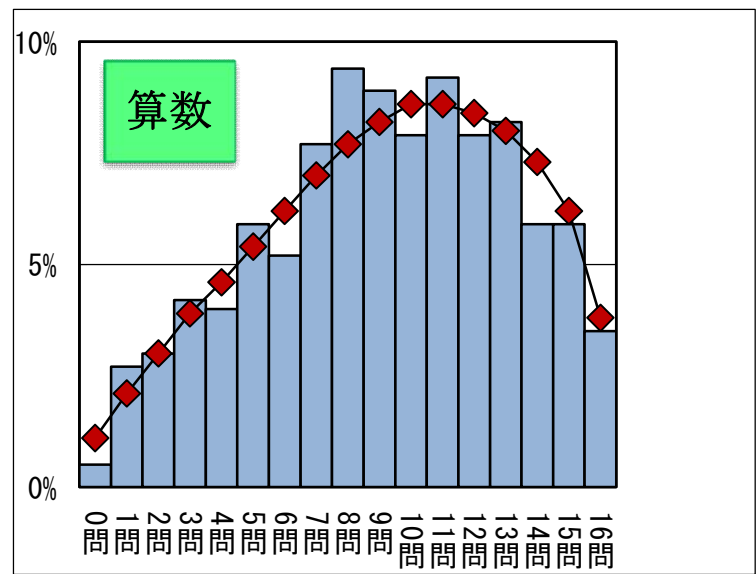
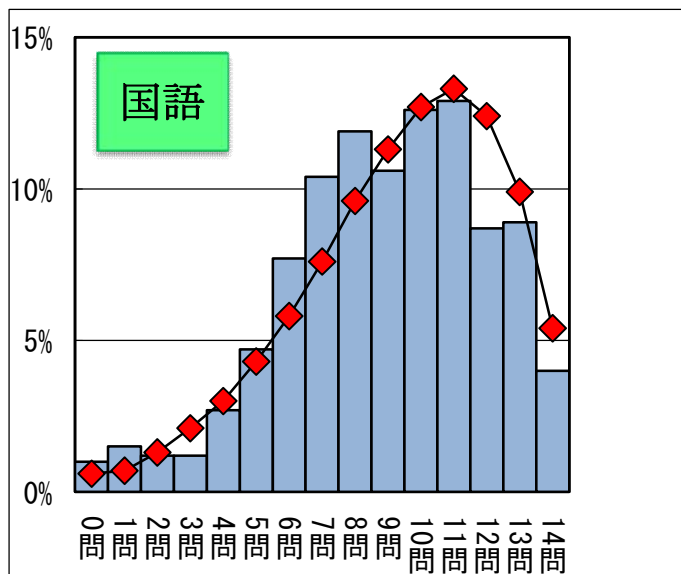
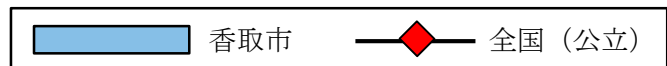
小学校の結果

(注) 調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

【平均正答率 (%)】

教科	香取市	千葉県(公立)	全国(公立)
国語	64	66	66.8
算数	57	58	58.0

【正答数分布グラフ】



平均正答率では、国語・算数ともに千葉県（公立）及び全国（公立）の結果を下回っていますが、その差はわずかでありほぼ同程度といえます。

正答数分布グラフでは、国語・算数のどちらも裾引き型の形状となっています。全国とほぼ同形状といえますが、国語、算数ともに、上位層が少ないという傾向があります。

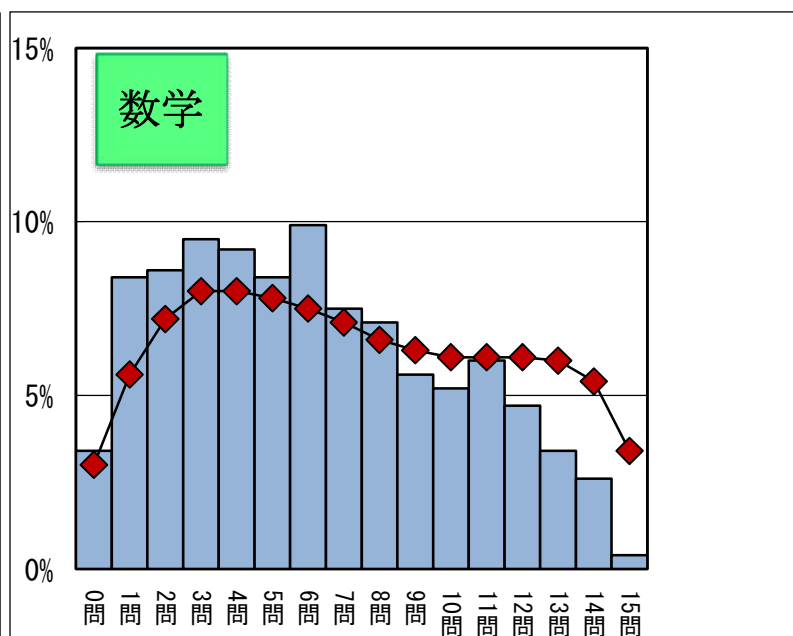
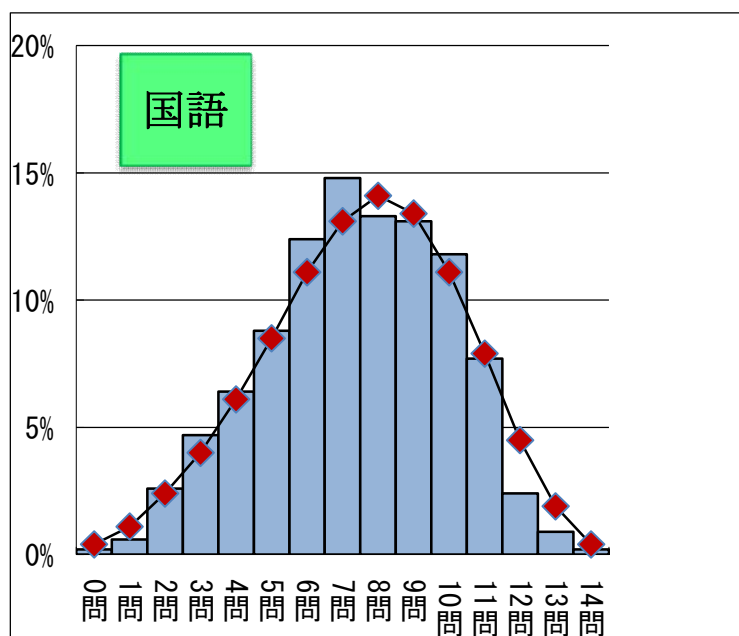
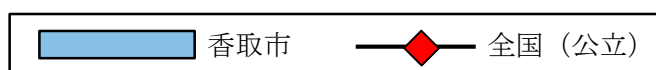
中学校の結果

(注) 調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

【平均正答率 (%)】

教科	香取市	千葉県(公立)	全国(公立)
国語	53	54	54.3
数学	41	47.0	48.3

【正答数分布グラフ】



平均正答率では、国語・数学ともに千葉県（公立）及び全国（公立）の結果を下回っています。国語はその差がわずかでありほぼ同程度と言えますが、数学は差が大きく著しく低いと言えます。

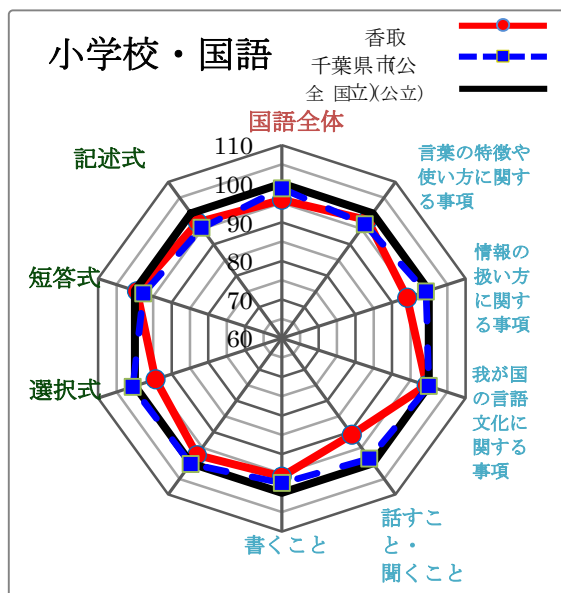
国語は、ほぼ全国と同形状になっています。数学は上位層が少なく、中位層から下位層が多い特徴があります。

(2) 教科についての傾向と課題

※全国（公立）の平均正答率を 100 として、千葉県（公立）、香取市の平均正答率を相対的に表したグラフです。

小学校・国語

傾向と課題



内容別では、すべての領域で全国平均を下回っています。特に「話すこと・聞くこと」では、全国平均を 100 とした場合、香取市が 90.8 となる結果でした。課題であった「書くこと」の項目で改善の傾向が見られます。また今年度調査に加わった「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均と同程度の結果となりました。

問題形式別では、「短答式」「記述式」は全国平均並みでしたが、「記述式」では全国平均に比べ数値の開きが見られました。

課題が見られた主な問題

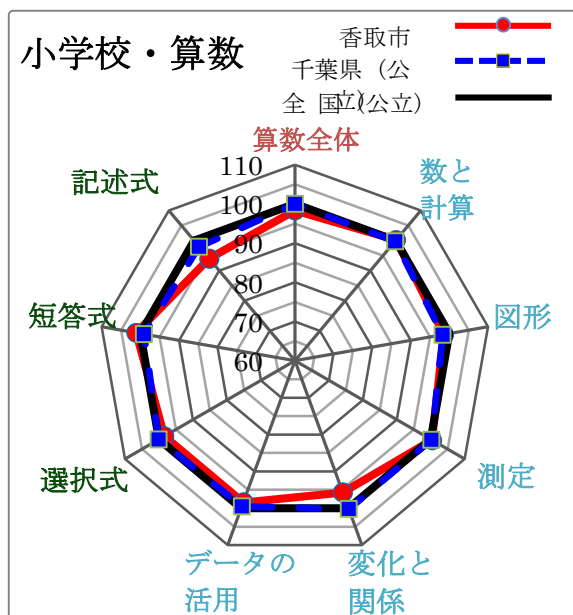
● 国語 1 一	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかみる 【話すこと・聞くこと、選択式】 [香取市 47.5% 千葉県(公立)51.2% 全国(公立)53.3%]
● 国語 1 三 (2)	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかみる 【話すこと・聞くこと、選択式】 [香取市 66.8% 千葉県(公立)73.7% 全国(公立)73.7%]
● 国語 1 三 (1)	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうか見る 【話すこと・聞くこと、選択式】 [香取市 66.3% 千葉県(公立)71.0% 全国(公立)71.8%]

力を入れた学習

- 目的や意図に沿って、日常生活の中から話題を決め、集めた資料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を明確にすることが大事である。
- 書くことにおいて、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりして、伝えたいことを書くことが重要である。

小学校・算数

傾向と課題



領域別では、「図形」「変化と関係」「データの活用」で平均を下回っていました。一方、「数と計算」「測定」では全国平均を上回り昨年度からの改善が見られました。

問題形式別では、「選択式」「記述式」において、全国平均と下回る結果でした。「選択式」の回答率は昨年度からの改善が見られました。一方、「短答式」は改善が見られ、全国平均を上回る結果となり、改善が見られました。

課題が見られた主な問題

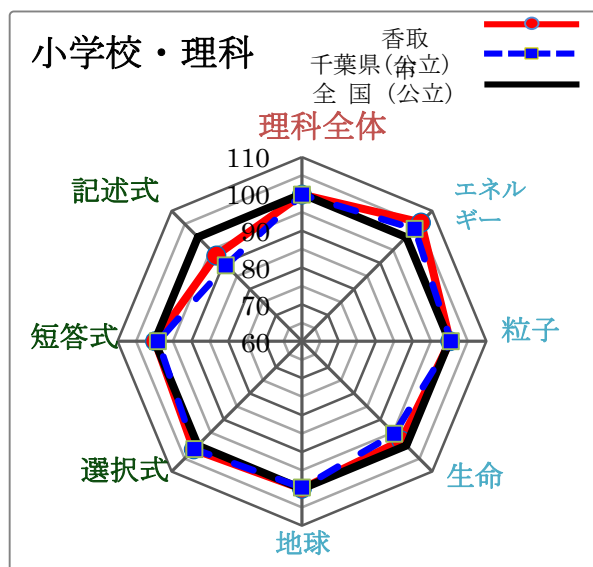
● 算数 1 (3)	示された表から「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ 【データの活用、選択式】 [香取市 66.6% 千葉県(公立)70.1% 全国(公立)71.6%]
● 算数 2 (4)	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかみる 【図形、記述式】 [香取市 32.2% 千葉県(公立)35.5% 全国(公立)37.0%]
● 算数 4 (4)	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる 【変化と関係、記述式】 [香取市 35.4% 千葉県(公立)42.2% 全国(公立)40.9%]

力を入れた学習

- 様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断理由を表現できるような学習の充実を図る。
- 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質に基づいて図形を弁別できるような学習の充実を図る。
- 多角形面積の求め方について、基本図形の面積の求め方を基に考察できるようにする。
- 示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることができるようにする。

小学校・理科

傾向と課題



領域別では、「エネルギー」「粒子」で全国平均を上回り、「地球」の領域は全国平均でした。「生命」の領域では若干全国平均を下回りました。全4領域において、前回調査よりも改善が見られました。

問題形式別では、「選択式」全国平均を上回り、短答式は全国平均でした。一方「記述式」において、全国平均と下回る結果でした。「選択式」「記述式」において前回調査よりも改善が見られました。

課題が見られた主な問題

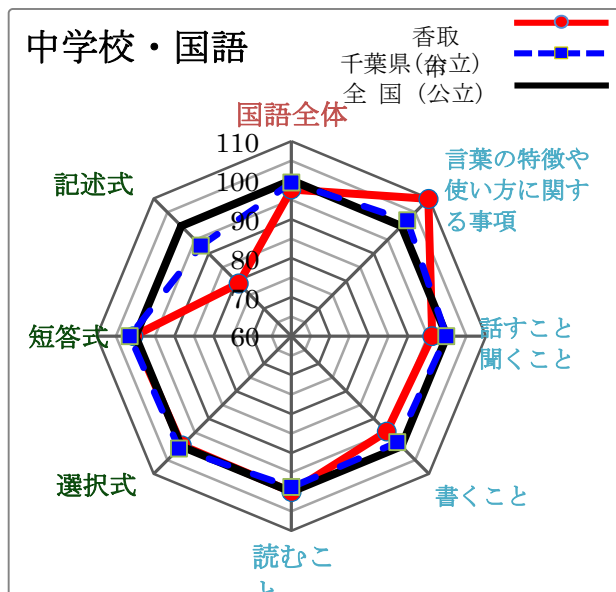
● 理科3(4)	レタスの種子の発芽の条件について。差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現できるかどうかをみる【生命、記述式】 [香取市 22.7% 千葉県(公立) 23.6% 全国(公立) 29.9%]
● 理科3(3)	発芽するための必要条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し表現することができるかどうかをみる【生命、選択式】 [香取市 58.5% 千葉県(公立) 63.1% 全国(公立) 62.0%]
● 理科1(1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる【地球、短答式】 [香取市 76.0% 千葉県(公立) 79.5% 全国(公立) 79.5%]

力を入れたい学習

- 花のつくりを観察するときに、図鑑などと照らし合わせおしべやめしべの部位と名称を説明する学習活動や複数の種類の花を観察し、共通点、差異点を見つける活動など、理科固有の名称を使用して自分の考えを表現する活動の充実を図る。
- 自然の事物・現象に働きかけて得た事実に基づいて、問題を見いだすことができるようにするためには、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要である。差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目し、問題を見いだすことができるようにする。
- 観察、実験などの結果を基に考察する際には、表やグラフなどに整理する活動を設けることで、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現できるようにする。

中学校・国語

傾向と課題



内容別では、「言葉の特徴や使い方に关する事項」が全国平均を大きく上回りました。昨年度からの大きな改善が見られます。

問題形式別では、「短答式」が全国平均をわずかに上回りました。「選択式」は全国平均を大きく下回りました。

課題が見られた主な問題

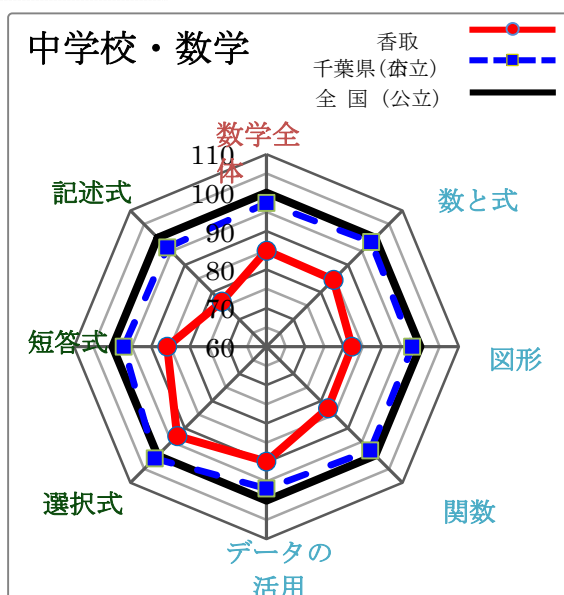
● 国語 4 二	読み手の立場に立って、語句の用法。叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかみる 【書くこと、記述式】 [香取市 22.5% 千葉県(公立)28.0% 全国(公立)30.1%]
● 国語 1 四	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にしてかくことができるかどうかみる 【書くこと、記述式】 [香取市 25.3% 千葉県(公立)27.6% 全国(公立)31.0%]
● 国語 3 四	文の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかみる 【読むこと、記述式】 [香取市 11.6% 千葉県(公立)16.9% 全国(公立)17.1%]

力を入れたい学習

- 自分の考えが伝わる文章にする上で、根拠を明確にして書くことについての課題が見られる。根拠を明確にするためには、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。伝えたい事実や事柄を具体的に書く学習の充実を図りたい。
- 作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められる。文章の構成やそれがどのような効果につながるのかなど自分の考えをもてるようにする。
- 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。課題解決のためには、話の内容を踏まえた要点や根拠の明確化、中心となる事柄が強調されているか、自分の考えが分かりやすく伝わっているかを確認する学習の充実を図りたい。

中学校・数学

傾向と課題



領域別では、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべてにおいて全国平均を下回っており、特に「図形」「関数」は、全国平均を100とした場合、香取市がそれぞれ82.2、82.6となる結果でした。

問題形式別でも、「選択式」「短答式」「記述式」すべてにおいて全国平均を下回っています。「記述式」は、昨年度に比べ若干の改善は見られましたが、全国平均を100とした場合、香取市が76.5となる結果でした。

課題が見られた主な問題

● 数学4	1次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかみる【関数、短答式】 [香取市 22.4% 千葉県(公立)33.4% 全国(公立)34.7%]
● 数学6(3)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかみる 【数と式、記述式】 [香取市 32.9% 千葉県(公立)43.4% 全国(公立)45.2%]
● 数学9(2)	図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて、ある事柄が成り立つことを証明することができるかどうかみる【図形、短答式】 [香取市 23.9% 千葉県(公立)31.6% 全国(公立)33.2%]

力を入れた学習

- 数と計算の領域では、素数、外角、増加量、相対度数などの数学固有の用語の意味理解に課題がある。読み上げ学習を活用した、基礎基本の徹底した理解。用語を使って説明・発表する練習、用語を使って文章で表現する機会の充実が必要である。
- 数量及び数量の関係を捉え説明する場面では、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明するために、数量やその関係を文字を用いた式で表すことが大事である。
- 日常生活や社会の事象を考察する場面では、問題解決の方法について数学的に説明できることが大切である。見出す、自分で取り組む場面で、課題を明確にし、解決の方向性を創造していく活動の充実が考えられる。また、自分の考えを記述する学習の充実が必要である。

中学校・理科

IRT スコア

IRT（項目反応理論）：児童・生徒の正答・誤答が問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童・生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童・生徒の学力スコアを推定する統計理論。IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準に得点で表すもの

	IRT 平均値	全国とのスコアの 割合比較	標準偏差
香取市	491	97.6%	119.5
全国（公立）	503	100.0%	124.0
千葉県（公立）	496	98.6%	120.1

課題が見られた主な問題

● 理科7（2）	<p>分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる 【粒子・生命、選択式、難易度5】 [香取市 35.3% 千葉県(公立)50.1% 全国(公立)51.6%]</p>
● 理科7（1）	<p>小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかみる 【生命、選択式、難易度5】 [香取市 29.4% 千葉県(公立)36.1% 全国(公立)34.8%]</p>
● 理科6（2）	<p>スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の断面図や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる 【粒子・生命、選択式、難易度5】 [香取市 36.4% 千葉県(公立)42.1% 全国(公立)41.9%]</p>

力を入れた学習

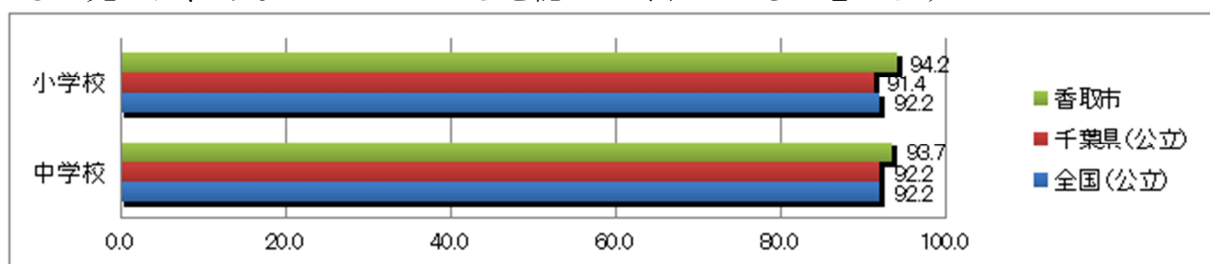
- 化学変化に関する知識と「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域の事象を関連付けて考える必要がある。生徒が関心を高められるように、日常生活との関連性の理解や課題の把握から課題の解決まで実験・観察のプロセスを大切にした学習をすることで、領域を関連させて思考する力が醸成されると考える。
- 「生命」の領域では、観察し記録をする際に、動画、写真、スケッチのそれぞれの良さを理解し、どの方法の記録が適切であるか主体的に判断する事が大切である。記録の観点を理解し、観察に関する技能の習得をめざす必要がある。

7 生活習慣や学習習慣等について

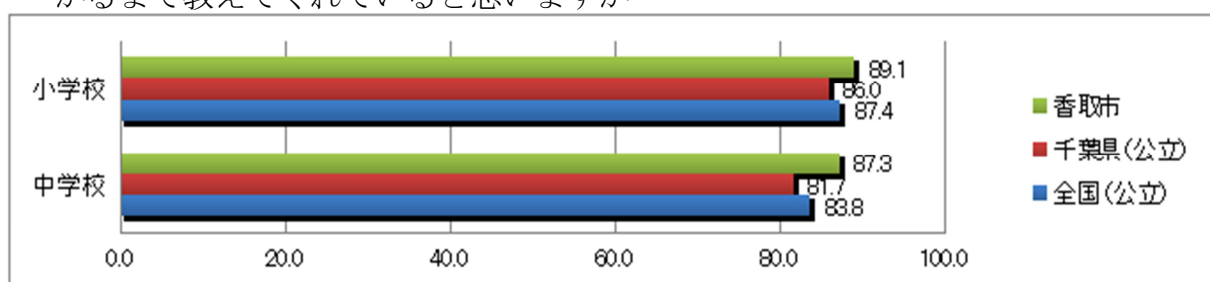
児童・生徒質問紙調査の結果から

※児童・生徒質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした児童・生徒の割合（％）

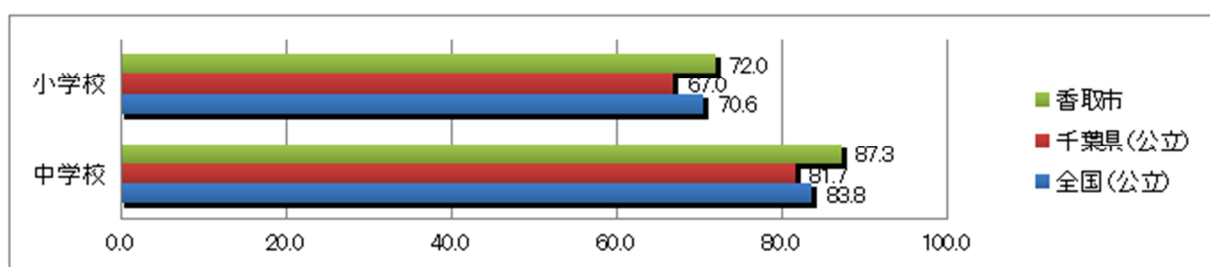
○ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



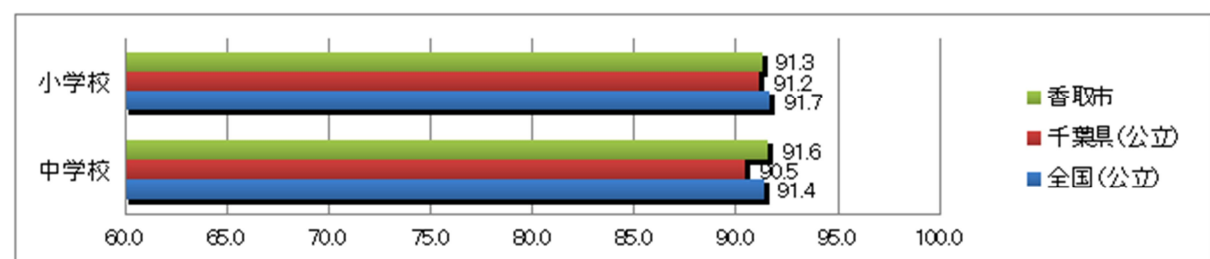
○ 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



○ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



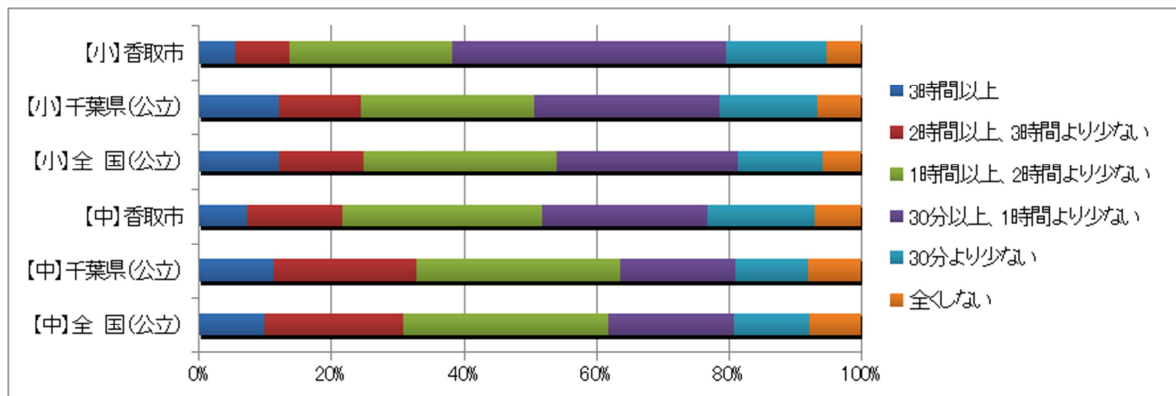
○ 友達関係に満足していますか



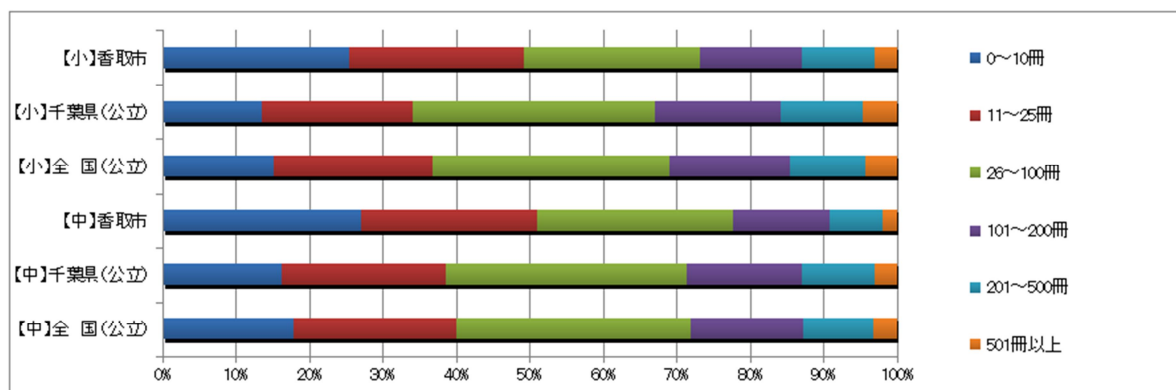
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の問いに対して、多くの項目で9割近い児童生徒が肯定的に回答しており、児童生徒と教職員の関係は良好といえます。

また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「友達関係に満足していますか」の問いに対しても全国や県と同様の9割以上の肯定的な回答が得られ、学校生活に充実感がある子が多いと考えられます。

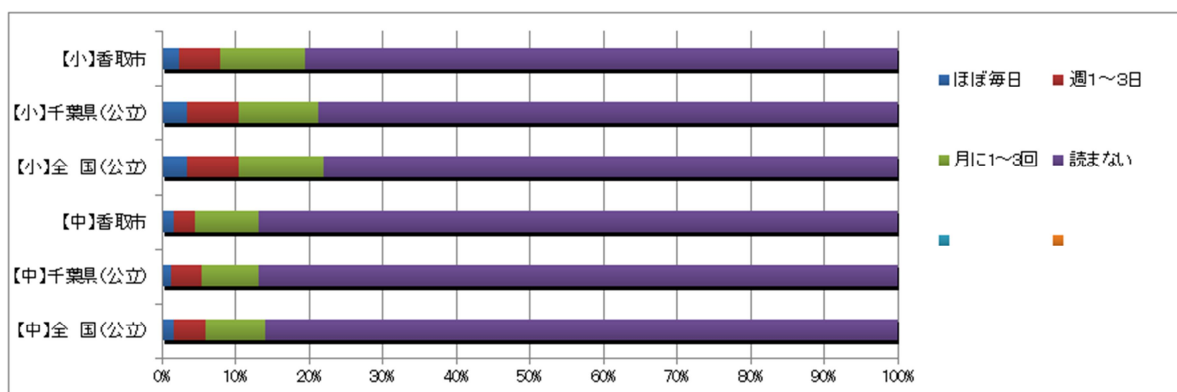
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



- あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）



- 新聞を読んでいますか

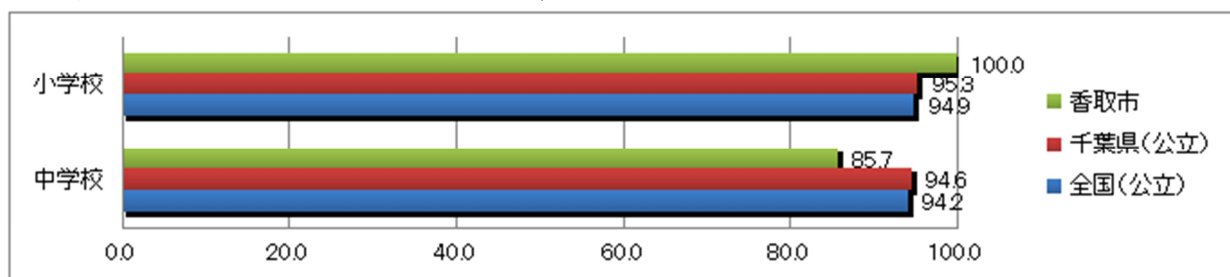


学校の授業時間以外に勉強する時間について、全国や県と比較して香取市は「2時間以上」の割合が少なく、「30分以上、2時間未満」が多いことが分かりました。本の所持数については、「201冊以上」の割合が少なく、「0~25冊未満」の割合が多いことが分かりました。新聞を読んでいるかについては、「週1~3日以上、ほぼ毎日」の割合が少なく、「月に1~3日」の割合が多いことが分かりました。

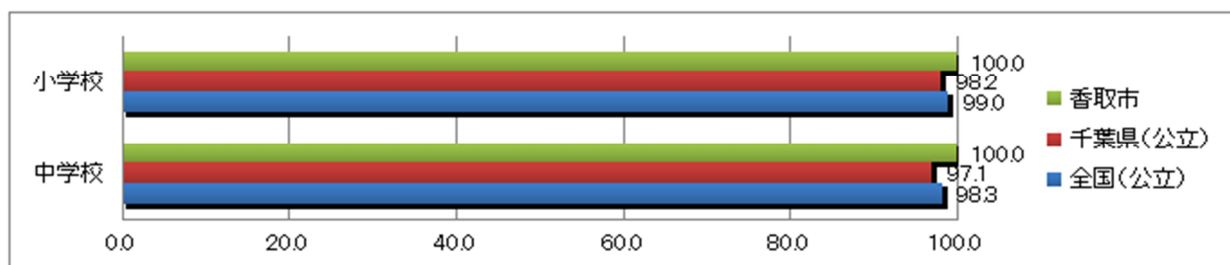
学校質問紙調査の結果から

※学校質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした学校の割合（％）

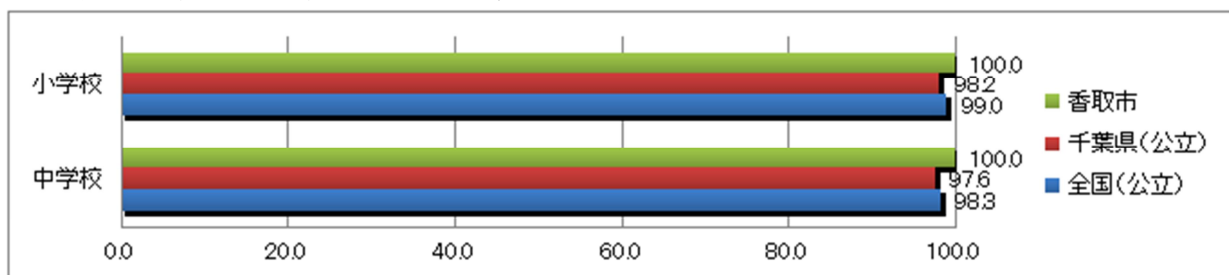
- 調査学年の児童生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるようにしましたか



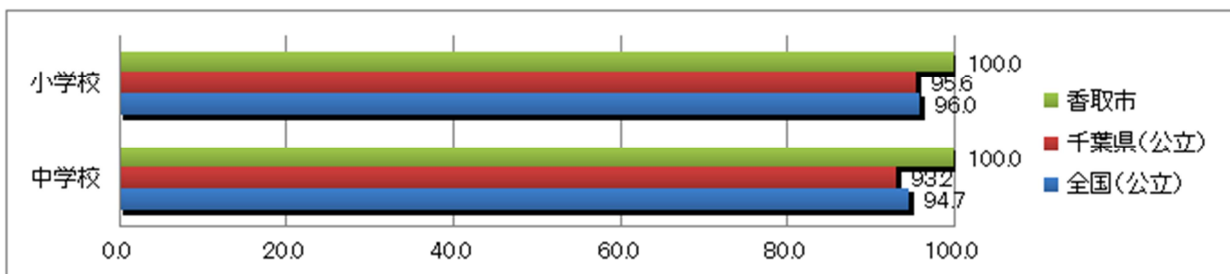
- ICTを活用した校務の効率化（仕事の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか



- 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査、各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



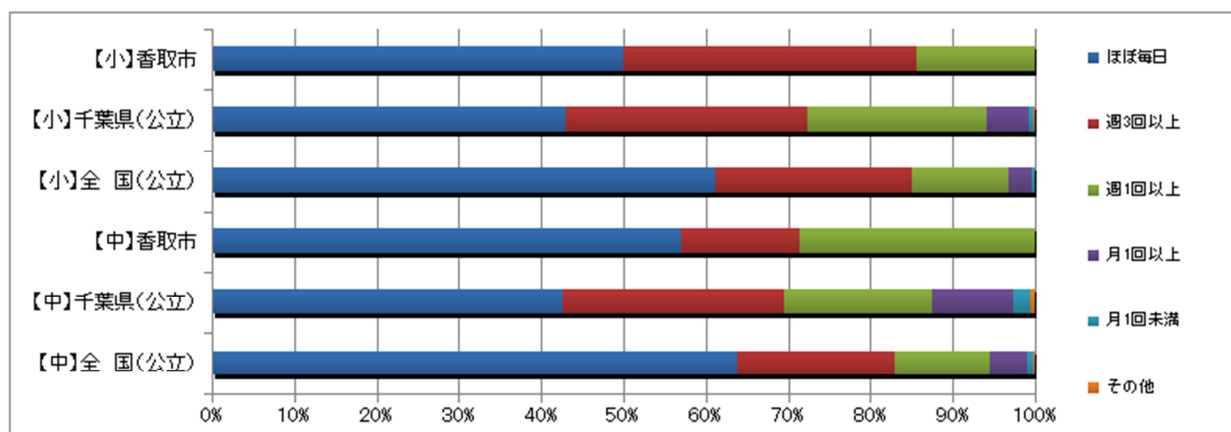
- 言語活動について、国語科を要にしつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



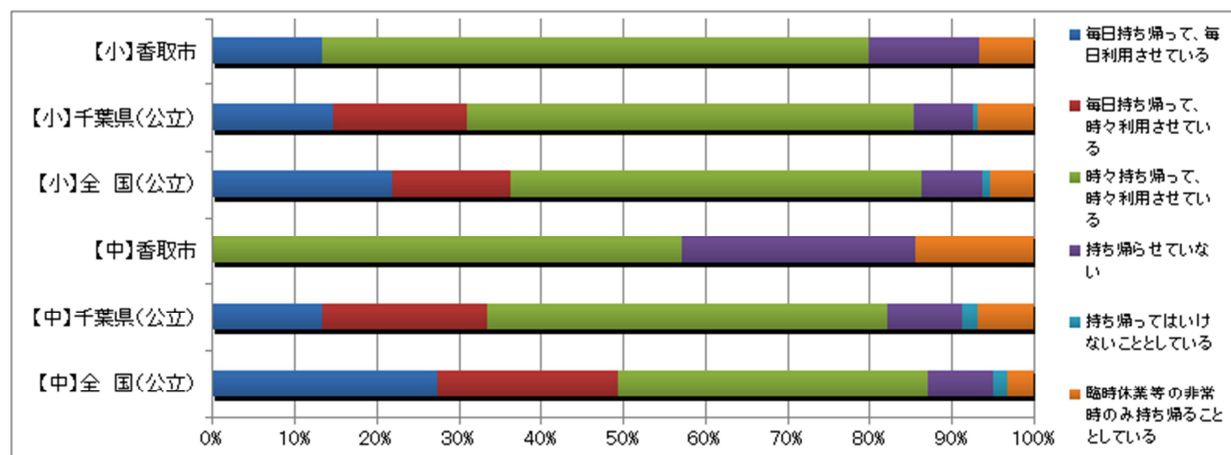
問いに対して全ての学校が肯定的に回答しており、児童生徒一人一人の良さを生かしながら合意形成を図る学級づくりや、各種データに基づいた教育課程の編成と、その改善を図る一連のPDCAサイクルを機能させている学校づくりが進められていることが分かります。

また、ICTを活用した校務の優良事例を取り入れ、業務の効率化に邁進している様子が分かります。良好な結果といえます。

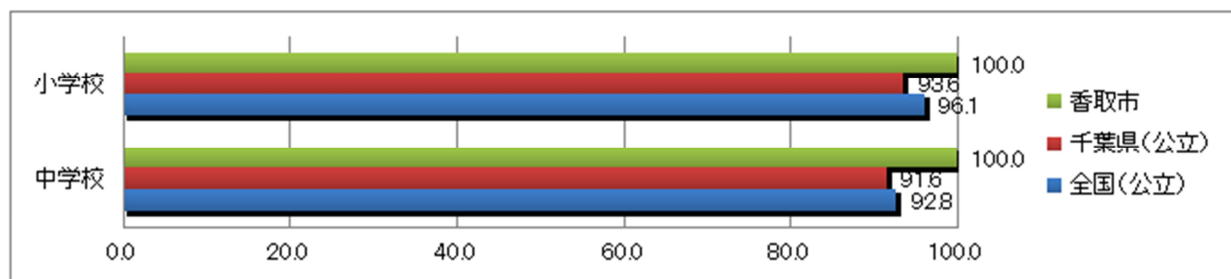
- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか



- 児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか



- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか



授業での ICT 活用では、千葉県平均と比較して「ほぼ毎日」と答えた学校の割合が高いことが分かりました。ICT 機器の使用頻度の改善がみられます。

児童生徒に配備されたタブレット端末の家庭への持ち帰りに関しては、「毎日持ち帰って毎日利用している」と答えた学校の割合は低く、「時々持ち帰って時々利用している」と答えた割合が高いことが分かりました。

家庭学習の方法については、小・中学校共に具体例を挙げながらの指導が進んでいるようすが分かります。全国や県と比較して高い結果となりました。家庭学習の充実と習慣化のため、具体的かつ丁寧な指導を継続していく必要性があげられます。

教科等の重点的な指導について

◆「思考し、表現する力を高める実践モデルプログラム」を活用した授業改善

- ・単元計画や授業計画の中に、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」という4つの過程を意図的・計画的に位置付け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に引き続き取り組む。

◆学習の見通しをもち、「振り返り」を大切にした授業づくり

- ・既習内容や生活経験といった根拠のある見通しをもたせる工夫をする。
- ・学んだことを振り返り、「自分の言葉でまとめる」活動に徹底して取り組む。

◆個別最適な学び・協働的な学びを支えるICT活用

- ・児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法や教材等の提供及び学習時間の柔軟な設定等をするために、積極的にICTを活用する。
- ・児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習目標に取り組む機会等を提供するために、積極的にICTを活用する。
- ・探究的な学習や体験活動等を通じて、子ども同士や多様な他者とのオンラインを含む協働的な学びを推進する。

◆言語活動の日常的な充実

各教科において、児童生徒の言語活動の機会を日常的に確保するとともに、それらの表現の質をさらに高められるように以下の取組を行う。

- ・語彙を増やす活動
- ・話し合う内容の焦点化
- ・発表の仕方の工夫
- ・感想や意見を書く活動
- ・長文や物語を要約する活動

◆検証機能を大切にした「指導改善サイクル」の改善

- ・全国学力・学習状況調査の問題の内容を把握する。
- ・全国学力・学習状況調査結果の把握とその分析を行う（県分析ツールの活用）。
- ・指導改善の取組を行う。
- ・指導改善の取組結果を検証する（客観的な分析による成果と課題の明確化）。

生活習慣・学習習慣について

◆生活習慣の見直しと改善

- ・児童生徒の携帯電話やスマートフォンの長時間利用や、家庭での利用ルールの未設定などの課題に対し、情報モラルや情報リテラシー、健康の維持増進等の観点から見直しと改善を図るとともに、保護者に対して啓発を図る。

◆家庭での学習習慣の定着

- ・学校（教員）は、児童生徒の実態に合わせて、家庭学習の量や質、方法、時間などを十分検討し、内容の充実を図る。
- ・学校（教員）は、児童生徒に対して家庭での学習方法や内容の充実を図るための指導、助言を行う。
- ・学校（教員）は、保護者に対して家庭学習の啓発を図り、習慣化できるように支援する。

9 指導の重点

○文部科学省提供の資料を活用し、各校の授業改善に役立てます。

- ・令和7年度全国学力・学習状況調査 報告書
- ・令和7年度全国学力・学習状況調査 解説資料

○千葉県教育委員会提供の資料を活用し、各校の授業改善に役立てます。

- ・「全国学力・学習状況調査データ」の分析ツール
- ・学びの突破口ガイド（小学校 低・中・高学年）
- ・ちばっ子チャレンジ100（小学校 低・中・高学年）
- ・「ちばのやる気」学習ガイド1・2・3（中学校 全学年）
- ・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム改訂版
（小学校1年～中学校3年）

○千葉県教育委員会では、家庭学習の充実をめざし、さまざまな視点から自らの学びを築くためのヒントをホームページに掲載しています。

対象は、児童生徒のみなさんや保護者の方々、そして学校の先生方です。

下記URLを参照して、家庭で、学校でご活用ください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2011/kateigakushuu.html>

○香取市教育委員会では、保護者用リーフレット「家庭学習のすすめ」を作成し、全小中学校の児童生徒を通して全家庭に配付しています。